

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	株式会社 アムケア		
事業所名	グループホームまどべⅡ わらべうた		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成31年3月14日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail.2017.022_kan=true&JigyosyoCd=0170504021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して、散歩に出かけることを日課としており、季節を感じながら、地域の方との交流を図り、社会から孤立しないよう支援しています。認知症により出来ないが増えて来ても、共同生活の中で家事等の作業を入居者と職員が一緒に行い、「できること」「できないこと」を見極めながら、役割のある生活ができるような支援を心がけています。食事は大切な楽しみの一つです。現在は栄養のバランスやカロリー計算がされた献立、季節感とバリエーションに富んだメニューで安全、安心できる食材で作られた食事をお出ししています。入居者に喜ばれています。まどべの理念に基づき、決して職員本位にならず入居者の個々のペースに合わせて、ゆったり時間が流れ、尊厳を守り、地域の一員としての社会的交流を支えながら、一日一日を大切に暮らすお手伝いをしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまどべⅡ」は、地下鉄東豊線や東西線の駅から徒歩で10分前後の静かな住宅地に立地している。近くには公園や商業施設も多く、生活の利便性に優れている。室内は広々とした明るい造りで、季節を感じるさり気ない装飾が施されている。施設長や管理者を中心に全職員で理念を共有し、一人ひとりの思いに寄り添いながら自分らしい日々が過ごせるように利用者中心のケアに取り組んでいる。理念に掲げる「地域の一員として」という文言を意識しながら、近隣住民や保育園、小中学校、ボランティアなどと年間を通して多くの交流を図っている。24時間シートに日々のケアの中で得られた情報を詳細に記録して見直しに活かしながら評価や新たな課題について話し合い、それぞれの職員の提案やアイデアを反映させて介護計画を作成している。外部講師による法人研修や内部研修など、充実した研修体制を整備して職員の資質向上に積極的に取り組んでいる。身体拘束の具体的な禁止行為についても職員は研修で理解を深め、3か月ごとにチェックリストで日々のケアを振り返りながら適切な支援につなげている。行事に合わせて桜餅やおはぎを利用者と一緒につったり、年間を通して近隣を散歩するなど、季節を感じてもらいたいという施設長の思いに沿って、全職員が自然な姿で優れたケアを日々実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は居間やスタッフルームに掲示しており、いつでも確認出来るようにしてある。カンファレンスや勉強会にて意見交換し、日々実践している。	地域密着型サービスを意識した法人共通の理念を作成し、事業所の要所に掲げている。サービス評価時や勉強会で理念に沿ったケアが実践できているか確認することで、各職員が理解を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の一員として、町内の活動に参加している。地域の保育園や住民、ボランティアの方交流する機会がある。	保育園の運動会や餅つきなど、年間を通して園児と交流している。陶芸や大正琴、楽器演奏や笑いヨガなど多くのボランティア訪問もある。小学校の合唱団や中学生の職業体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まどべⅡでの行事に招待したり、運営推進会議の時等、相談や質問を受けており、アドバイス等させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を兼ねた避難訓練の時は、外部評価等の評価結果等を報告している。また毎回意見交換は行っている。	同一建物内の法人3事業所合同で開催し、主に身体拘束適正化委員会や避難訓練を実施して年間8回開催している。家族の参加者が固定化しつつあるので、参加できない家族の意見も事前に聞き取り、会議に活かしていきたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当者とは常に情報交換や相談などを行っている。協力関係を築くように取り組んでいる。	施設長が行政と連携して、書類の確認や提出、相談などを行っている。今年度は身体拘束適正化委員会の設置についてアドバイスを受けている。諸事情により開催には至らなかったが、法人が行政から講師の依頼を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者を含め、全職員が身体拘束をしないケアについての勉強会に参加している。また夜間以外は玄関に施錠していない。	全職員が3か月ごとに身体拘束や虐待に関するチェックリストに取り組み、身体拘束適正化委員会で検討している。職員は、内外の研修で「禁止の対象となる具体的な行為」について学び、理解を深めている。安全面に配慮して、家族と相談しながらベッドから布団に変更した利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者を含め、全職員が虐待防止法等についての勉強会に参加している。虐待のないケアを実践している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や外部の研修に参加し学ぶ機会がある、研修に参加者は全職員に研修内容を報告している。入居者の方には成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書や契約書を渡すとともに口頭でも説明している。退居(解約)時には話し合い、必要なフォローをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等外部者がいる時にも意見をうかがっている。ご家族の来訪時に意見伺う機会があり、運営に反映させている。	面会時に近況を伝えて意見や要望を聞き取り、申し送りや伝えたり日誌に記録している。継続して職員間で情報が共有できるように、家族の意見や職員の気づきを個別に記録することも検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月定例の勉強会やカンファレンスに出席し、職員の意見を聞き入れ、運営に反映している。	利用者の状況に応じて業務改善をしながらケアの質を上げることが重要であるという職員の提案から、定期的に業務内容について検討しているユニットもある。役職者は、普段から職員の話に耳を傾けて働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の状況を把握し評価している。また、職員との面談の機会を持ち各自が向上心を持って働けるよう、環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の力量に合った外部研修に参加できるよう積極的に進めている。採用時には、3日間の採用時研修を行い、理念や業務内容の研修を、実務に入る。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌GH合同事業体に加入しており、研修会に参加することでネットワークが出来、情報交換しながら、サービスの質の向上に結び付けている。区の管理者連絡会の研修に参加して交流の機会があり、意見交換の場がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族やご本人が、まどべⅡに訪問して頂き、見学や、要望や不安に思っていることに耳を傾けて、安心してサービスの利用が出来るように、働きかけ話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が安心してサービスの利用が出来るように、こまめに連絡をとり、話しやすい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者はサービスの利用前に、ご本人とご家族の状況を見極め、他のサービスの利用の必要性の有無も視野に入れて話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人と一緒に、家事等を行い、教わる場面作りをして尊敬や感謝の気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の絆も大切に、情報交換しながら共に支えていく意識を共有できるよう努めている。来訪時やお電話でお話する機会が有る時は、日常の様子や行事予定をお伝えして、いつでも訪問して頂ける関係作りをしていきます。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の話題を提供するなどしている。ディや小規模多機能から移られた方が居ます。毎日の散歩の時、立ち寄りたり来て頂き交流する機会を持ちます。ご家族以外の方との交流の支援もします。	近所に住んでいた方や宗教関係の知人が来訪する利用者もいる。職員と一緒に近隣の店に買い物に出かけている。家族と外食したり自宅に帰る方もいる。趣味を継続している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しないように配慮している。食卓や普段の座る場所なども楽しく過ごせるように工夫しています。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の方の来訪があったり、関係は継続している。相談を受けフォローする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族等から、生活歴や嗜好等を聴き、ご本人の思いや希望等を把握するように努めている。	会話や表情、仕草などから思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式シートを作成し、毎年独自の情報シートを更新しているが、趣味や嗜好などの情報が十分とはいえない方もいる。	センター方式【B-3】シートを今後も活用して、定期的に追記や更新を行いながら情報を蓄積するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の記録等を活用し全職員で情報を共有している。新しく得られた情報も記録に残し、職員間で共有する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に観察し、申し送りや記録で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには全職員で意見交換を行い、本人を尊重し、具体的なケアが出来るようにケアプランを作成している。	普段のケアの中で得られた利用者の会話や仕草などの情報を詳細に記録した24時間シートを基に全職員で評価を行い、3か月ごとに介護計画を作成している。介護計画の計画番号に沿って変化などを日誌に記入して更新計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートや毎日の様子を具体的に書き込み、職員間で情報を共有し、新たなケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケアにも対応しており、新たに在宅診療を行う医師と連携している。在宅医療を行う医師と連携している。在宅マッサージや理美容なども、ご本人や家族のニーズに応えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民やボランティアの方と協力し、楽しい場面を提供できるように努めている。地域の保育園と交流を持っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、提携医の往診がある。その他、個々の状況に応じて提携医以外の医療機関にも通院介助している。歯科の往診もあるが、ご家族の協力を得て歯科受診もできる。	入院時や家族と専門医などを受診する時は、状況に応じて書面で健康状態を伝えている。受診記録は現在の書式を継続しながら、個人情報に配慮して家族に明示することになっている。	

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、週1回の訪問があり、情報を共有している。緊急時には同事業所の小規模多機能の看護師の協力を得ることが出来る。提携医とは24時間電話相談が出来るので、必要な時に支援できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院を目指し、こまめな情報交換、働きかけをしている。看護連絡所を提供する。退院時のカンファレンスには、ご家族と施設長、管理者が参加し、情報の共有をしてケアに繋げる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応に関わる指針を説明の上、同意書をもっている。また、ご本人や家族の希望も聴いている。現在、ターミナルケアを行っている方もいる。	利用開始時に指針に沿って事業所として可能な対応や方針について説明している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所の3者で話し合い、希望に応じて可能な限り看取りに取り組んでいる。職員は、法人研修で看取り対応について学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、採用時研修で学んでいる。消防署と連携し、定期的に訓練を行っている。必要に応じて、カンファレンスや勉強会で情報を共有する。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域の住民も参加していただき、避難訓練を行っている。	年2回、夜間の火災や地震からの火災発生を想定して避難訓練を実施している。消防署や消防設備会社、地域住民も参加している。家具類の転倒防止対策を行い、自立避難困難者についての対応方法についても職員間で話し合っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やプライバシーを尊重し、尊敬の念を持ち、丁寧な言葉がけで接している。	採用時研修や、法人研修で外部の講師による接遇を学び丁寧に対応している。個人的な話は居室などで聞き、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを汲み取る努力をし、自己決定できる場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや体調に合わせた過ごし方をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整えたり、季節や天候に合わせたその方らしいおしゃれが出来るように支援している。		

グループホーム まどベⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時は、皆で共有できる話題を提供し、楽しみながら食事している。また、食事の支度も一緒に行っている。食器の下膳や食器拭きは、できる範囲で行って頂いている。	食材会社の献立に特別メニューの希望も入れている。外食で回転寿司や好きなデザートを選んでいる。利用者も参加して誕生日のケーキ作りや、チョコバナナ、甘酒、桜餅で季節感を味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握、個々に摂取量を確保するように支援している。飲み込みが悪くなっている方には、飲み物をゼリーに加工したり、とろみ剤を使う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食後、昼食後は、個々に合わせた口腔ケアを行っている。就寝前は、歯科医の指示がある方、磨きが不十分な方の支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、チェック表を元にトイレ誘導している。立位が不安定な方は、職員二人介助にて、トイレを使用して頂く。	昼夜間とも可能な限りトイレでの排泄を支援し、声かけや誘導を行っている。日中と夜間でパッドを使い分けたり、夏季にはりハビリパンツを布に替えるなど状態に沿って対応している。食事内容や運動、水分補給で自然排便に向けて工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量チェックや運動を行っている。また医療機関と連携して、状況に応じた下剤のコントロールもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者と職員が1対1で会話を楽しみながら入浴している。週2回は入って頂けるように支援する。体力のない方などは、2名介助で行う。急な失禁などで入浴が必要ない方にも対応する。	日曜を足浴日とし、毎日午後の時間帯に入浴を支援している。希望で週2回以上入る方もいる。主治医による入浴制限がなければ2人介助で安全面に配慮して全員が湯船に浸かり、ラジカセで好きな歌を聞いたり職員と話をしながら入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日40分くらいの昼寝をする方もいる。昼夜逆転しないよう配慮している。夜間は2時間ごとの見回りと、必要に応じ、トイレ誘導や体位変換を行う。居室の温度や湿度の管理をする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬について、定例の勉強会時等に情報習得している。都度の処方の変更は、医療ノートや毎日の送り時に情報を共有する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見極め、役割を提供している。また、趣味のボランティアの先生と協力して、楽しい時間を提供している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通して、散歩や買い物を日課としている。また季節の外出行事もあり、花見、さくらんぼ狩り、レストランで外食などにでかけている。個々の希望に合わせて、職員や家族の付添いのもといつでも出かける事が出来る。	近隣に4か所ほどある公園で桜の花や紅葉を眺めて散歩している。畑の作物や収穫を楽しみ、近くのコンビニエンスストアなどで買い物をし毎日のように外に出ている。季節行事のほか、札幌円山動物園、サンピアザ水族館に出かけている。冬期も周囲を散歩し年間を通して外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さは理解している。近所のお店に職員と行く。居室で使うティッシュを事務所に買いに来る方、など個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会ごとに電話できるよう支援している。職員が仲介するなどの支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーはバリアフリーである。また、季節を感じれる装飾品やポスターを飾る。心地よい空間づくりを意識している。	居間には食卓テーブルを中心に、2か所にソファ席を配置し、好きな場所で団欒できるように工夫している。居間とトイレの場所にカーテンを取り付けてプライバシーに配慮しているユニットもある。窓際に観葉植物や小さな縫いぐるみを並べたり、廊下に行事内容が分かりやすく掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置等を工夫することにより、気の合う方同士過ごせたり、一人になれたりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等をお部屋に持ってきていただき、環境の変化を最小限に抑えるように努めている。	居室内は明るく、馴染みの洋服、整理タンスや座椅子などの家具類や仏壇、趣味の物が持ち込まれている。家族と話し合い、マットレスの使用や布団で安全に寝起きできるように工夫している利用者もいる。家族の写真や作品などが飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やのれんをかけて、分かりやすい工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	株式会社 アムケア		
事業所名	グループホームまどべⅡ おとぎばなし		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成31年3月14日	評価結果市町村受理日	平成31年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2017.022_kani=true&JigyosyoCd=0170504021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成31年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まどべグループの理念に基づき、決して職員本位にならず入居者の方の個々のペースに合わせ、ゆったり時間が流れ、尊厳を守り、地域の一員としての社会的交流を支えながら、一日一日を大切に暮らすお手伝いをしています。ボランティアの先生に協力して頂き、陶芸・茶道・生花・大正琴等の趣味活動や外出行事等、継続的にしています。
また一年を通して、散歩に出かけることを日課としており、季節を感じながら、地域の方との交流を図り、社会から孤立しないよう支援しています。認知症により出来ないことが増えて来ても、共同生活の中で家事などの作業を入居者の方と職員が一緒に行い、「できること」「できないこと」を見極めながら、さりげない支援を心がけています。職員同士が意見しやすい環境作りにも力をいれています。離職率を少しでも下げ、安定した職場環境を作ることで、入居者様の安心にもつながるので力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり寄り添い慈しみ合って暮らしていきたい自分らしく誇り高く地域の一員としていきいきと」の理念を皆で共有し、カンファレンスや勉強会で意見交換している。また、居間やスタッフルームに掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流があり行き来したり、町内会とも会議や行事に参加しあっている。また毎日の散歩の時にも地域の方と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時など、相談や質問を受けており、アドバイス等させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には入居者の方も参加しているのでサービスの実際を見て頂いている。また毎回意見交換は行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の担当者とは電話や、訪問をして情報交換をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員が身体拘束をしないケアについて、社内外の勉強会や研修に参加している。また夜間以外は玄関に施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者および全ての職員が虐待防止法等について、社内外の勉強会や研修に参加している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、参加した職員は研修内容を社内の勉強会で報告している。また入居者の方には成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書や契約書等の説明をし、同意して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方とは日頃からコミュニケーションを取るよう努めている。また運営推進会議など外部者がいる時にも、意見をうかがっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月行っているカンファレンスや勉強会に出席し、職員と意見交換をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の状況を把握し評価している。また、向上心を持って働けるよう、整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員の力量に合った外部研修に参加出来るよう積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に参加することでネットワークが出来、情報交換しながら、サービスの質の向上に結び付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心してサービスの利用が出来るよう、ゆっくり時間をかけ話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が安心してサービスの利用が出来るよう、こまめに連絡を取ったりして、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者はサービスの利用前に、ご本人やご家族の状況を見極め、他のサービスの利用の必要性も視野に入れ話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人と一緒に家事などを行ったり、教わる場面作りをして尊敬や感謝の気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の絆も大切にし、情報交換しながら共に支えていく意識を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所の話題を提供するなどしている。また、話して頂く等の支援もしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士の関係を把握し、孤立しないように配慮している。また、入居者の方同士が助け合える場面作りや仲立ちもしている。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の方の来訪などがあり、関係は継続している。相談を受けフォローする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々の会話等から、ご本人の思いを汲み取り、ご本人の視点で支援できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過などをご家族の方やケアマネやソーシャルワーカー等から情報収集し、全職員で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に観察し、申し送りや記録で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員がモニタリングしカンファレンスに参加もしくは書面を提出して、本人本位のケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には具体的な様子などを書き込んでいる。職員はそれを共有し、新たなケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関以外でも連携している医療機関がある。ご家族の都合がつかない場合等、職員が通院介助する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民の方やボランティアの方と協力し、楽しい場面を提供している。また、保育園との交流会もしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より通院されていた医療機関がある場合は、希望通り通院を続けられるように支援している。また職員が通院介助する事もある。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と情報共有している看護職員が24時間連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院のリスクを理解しており、入院時には早期退院を目指す働きかけをし、こまめな情報交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応に関わる指針を説明の上、同意書をもっている。また、ご本人やご家族の希望も聴いている。訪問診療のドクターと連携し適宜ターミナルケアもしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、採用時研修で学んでいる。また、消防署と連携し訓練もしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の指導の下、年に2回地域住民の方にも参加して頂き、避難訓練を行っている。災害グッズも用意している。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけで接している。誇りやプライバシーを損ねないように配慮し、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から思いを汲み取る努力をし、自己決定できる場面作りを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、希望や体調に合わせて過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をしたり、季節感のある服装やその方らしいおしゃれが出来るよう支援している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しい話題や好きな話題を提供しながら、個々に合った形態や食器で食事をしている。また、食事の支度や片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握している。また摂取量を確保できるよう情報共有している。医療食品も必要に応じて活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアをしている。また定期的に歯科の訪問診療を受けている。医療ノートにも先生からのアドバイスも記入している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を元に排泄パターンを把握しトイレ誘導をしている。出来る限りトイレでの排泄を目指している。また羞恥心にも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量チェックや運動を行っている。また医療機関と連携して、状況に応じた下剤のコントロールもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望があった時には出来る限り対応している。また入浴の時にはゆっくり会話を楽しんでいる。転倒、転落防止に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活を心がけており、夜間良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬について、勉強会で情報共有したり、薬が変わるごとに目的や副作用について医療ノートに書いて職員は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を提供することで居場所があると感じて頂いている。また、趣味のボランティアの先生の来訪を楽しみに待たれている方が多い。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通して散歩や買い物行っている。また、季節ごとに外出行事もあり、花見、さくらんぼ狩り、レストランで外食などにでかけている。その他希望に合わせ、職員や家族の付添いのもいつでも出かける事が出来る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方がおり、ご自分で好きな物を選び買物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会あるごとに電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはバリアフリーである。また、季節を感じる装飾品を飾り、家庭的な雰囲気づくりを意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置などを工夫することにより、気の合う方同士過ごせたり、一人になれたりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきて頂き、環境の変化を最小限に抑えるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やのれんをかけて、分かりやすい工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームまどべⅡ

作成日：平成 31年 4月 2日

市町村受理日：平成 31年 4月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	まどべグループ独自の情報シートを重点的に更新していたが、その内容に興味や嗜好の情報が無かった。	独自の情報シートと併せて、センター方式【B-3】シートの定期的な更新も行う。	2つのシートは同時期に更新し、センター方式【B-3】シートを更新する際にはペンの色を変えて日付を入れる。	平成31年4月～平成32年3月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。